



小学館
定価：1,430円（税込）

FROM MY BOOKSHELF



わたしの本棚

僕方の死に方

エンディングダイアリー500日

流通ジャーナリスト 金子 哲雄 著

私たちが、人間にとって、いや生命のあるものの宿命として、「死」は避けられない事象であり、その時は遅かれ早かれ必ずやってきます。私たちはその時、この「死ぬこと」にいかに対峙していくべきなのかは、人間にとつて大きなテーマの一つです。

著者の金子哲雄氏は自らの職業を「流通ジャーナリスト」と名乗り、当時、人気絶頂であった。私が彼を最初に見たのは、テレビ番組「ホンマでっか!?TV」であった

と思いますが、随分変わったいでたちで、「くがお得なんですよ！」で始まり、なぜそれが今お得なのか解説するスタイルでトークを盛り上げていた。テレビという媒体であった事も幸いしてか、この結論を先に言つてから解説するやり方は、散々話を引っ張つておいて、「なにその結論は！」と思う事が少なくなかつたテレビ界では、斬新なやり方で彼はたちまち人気者となりました（実はこのスタイル、私が講演会でお話させていた

時にこつそり使わせていただいている手法です！）。

そんな彼を襲つた突然の「余命宣告」。これは、彼が余命宣告後、後世に何か残したいとの願いから出版された本であり、とても読み応えがある内容です。その詳細は本書に譲ることとして、彼が「流通ジャーナリスト」として最後に手掛けたのはなんと自分の葬儀を「お得に」プロデュースする事でした。彼は自分の葬儀に参列していただいた弔問客に対するあいさつ文まで準備してしまふのです。

また彼の死後、彼の妻の稚子さんがアンサーブックを出版されています。こちらもお薦めで、より本書への理解が深まるものと思われまふ。ぜひ一読あれ！

（みやき町 今村 洋一）